【高等学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀県立唐津工業高等学校

1　前年度 評価結果の概要	授業でのICT機器の積極的な活用や、「数学会」等による基礎学力の定着の取組みにより、生徒の学習意欲や授業に対する興味・関心を高めることができた。また、地域貢献・連携を積極的におこない、地域から信頼される学校に変革している。生徒指導については、各科と各学年の連携を密にしながら全職員で情熱を持って指導に当たることにより、生活全般における規範意識の醸成に取組んでいる。特に、学校独自の取組みとして、ヒューマントレーニングを実施し、道徳心の育成やマナーの向上に取組んでいる。
2　学校教育目標	２１世紀を担う心身ともに健康でたくましく、知徳体の調和のとれた、視野の広い、工業や社会の発展に貢献できる人材を育成する （学校経営ビジョン） 「ものづくりによる人づくり」「部活動による人づくり」を柱として生徒が入学して良かった、保護者が入学させて良かったと思う学校づくり
3　本年度の重点目標	**① いじめ・暴力行為の防止と早期発見・迅速な対応** **② ものづくりによる「地域連携・貢献」の充実** **③ 部活動の入部率・定着率の向上と活動の活性化** **④ 規範意識の高揚と基本的生活習慣の定着** **⑤ 全生徒の進路実現のための進路指導の充実** **⑥ 清掃活動の充実と校内美化の向上** **⑦ 資格取得やコンテストへの積極的な挑戦**

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

(1)共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	◎基礎学力の定着と夢の実現 （志を高める教育）	◎生徒に確かな基礎学力を身につけさせ進路実現１００％を達成する。	・学力向上のために行っている「数学会」（学び直しの時間）や各種小テストを定期的に実施し、生徒の基礎学力定着をはかるとともに家庭学習の充実のため、教科担当に宿題を依頼している。 ・家庭学習の充実を図る。 ・生徒一人ひとりが、自らの将来について考え、希望する進路が実現できるよう、個々に応じた学習指導や進路相談、情報提供を行う。	A	・学力向上のために行っている「数学会」（学び直しの時間）や各種小テストを定期的に実施し、生徒の基礎学力定着をはかるとともに家庭学習の充実のため、教科担当に宿題を依頼している。 ・進路に関する特別活動を各学年で2～3回実施し、進路意識の高揚を図ることができた。3年生の就職1次試験の内定率(92.6%)が昨年より向上(85.4%)した。	A	・学力向上では、各種小テスト(国語・数学・英語)や1年生の数学会を通して、生徒の基礎学力の向上に努めた。また、教科担当には教務より宿題を出すように指導した。 ・進路に関するクラス指導は、1年生3回、2年生5回、3年生3回実施し進路意識の高揚を図ることができた。1・2年生はキャリアパスポートで自らの進路を考える時間を確保し、将来の仕事について考えることができた。3年生は応募前職場見学や企業のホームページで企業を調べ、就職率100%を達成することができた。	B	・就職内定率の向上が示すように、概ね達成できていると思われる。 ・漢検、英検など、専門の資格以外の将来役立ちそうな検定ももっと受検してほしい。	教務主任 進路指導主事
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○規範意識、公共モラル･マナーの向上、自他の生命尊重など、人格形成の一助となることを目指す。 ○「地域に愛される学校」を目指し、地域ボランティアへの積極的な参加（年間合計100名以上）を目指す。 ○ものづくりによる｢地域連携･貢献｣を行い、豊かな心を身に付けることを目指す。	・規範意識や道徳心の向上のため、本校独自の取組みである「ヒューマントレーニング」を年間13回行い、公共やSNSの問題等に真摯に向き合い考え行動できるようにする。 ・部活動を活性化させるため、1年生の全員入部を促進し部活動による人づくりを図る。 ・「地域連携・貢献」活動に積極的に参加し他者に対する思いやりの心や社会性、倫理観や正義感、感動する心などを醸成させる。	A	・ヒューマントレーニングは、身近な事柄を通して考えさせることで規範意識・心の教育の向上につながっている。自分自身を見直す良い機会となっている。 ・部活動は1年をはじめ全学年の積極的な入部を勧めている ・地元の方からもボランティア活動などを評価され、徐々にではあるが、地域に愛される学校になっている。また、外部から指導をいただいた際には、担任等から指導している。 ・コロナ禍であるが、ベンチの製作や小学校との交流などをできる範囲で積極的な地域貢献に努めた。この活動がものづくりによるひとづくりに繋がっている。	A	・ヒューマントレーニングを計画し、身近な事項を通して考えさせることで心の教育を実施し、思考力や判断力、モラルやマナー向上に繋げることができた。 ・入部率は高いが、部活動に参加しない生徒もいる。このことを踏まえ、顧問教師による、根気強い継続した指導の必要性を感じている。 ・コロナ渦が続く中での活動であったが、地域の方々や地元企業の協力のもと、外部講師や現場及び工場見学が実施できた。小学校へのすのこ製作・贈呈や近隣地区へのゴミステーション製作・贈呈など積極的な地域貢献ができた。また、本校生徒と近隣中学生との修繕活動を行い、ものづくりの楽しさを知ると同時に、豊かな心の醸成に繋がっていると思われる。 ・外部等からの指導は、学期を追うごとに減少した。様々な場面での指導や取り組みの成果ではないかと感じている。	A	・今年1月に実施された献血活動など社会貢献への意識が着実に向上していると思う。 ・部活動や地域貢献により生徒の心身ともに豊かな成長に繋がっている。 ・ものづくりを通して、地域への貢献活動を展開されていて、今後も地元とのつながりを大切に継続されることを期待している。	教務主任 特活主任 工務部長 生徒指導主事
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ問題の早期発見のためのアンケートを年間5回実施する。 ○いじめ問題が発生しないための環境づくりと啓発に取組む。	・複数担任によるホームルームやアンケートの実施、各学年団による昼休みの校内巡視などを積極的に行い、生徒とのコミュニケーションを密にし、いじめ･暴力行為の防止と早期発見及び迅速な対応を行い、すべての生徒が安心して学校生活が送れるようにする。 ・「ヒューマントレーニング」を年間13回行い自他の生命を尊重する心、他者への思いやりの心などを醸成させる。	A	・毎日、正副担任によるホームルームや校内巡視、計画的なアンケートや面談を行いいじめの未然防止に努めた。特に、正副担任による面談には効果があると思われる。 ・ヒューマントレーニングより、自他の生命尊重の心、他者への思いやりの心などの醸成につながっている。	A	・正副担任3名によるホームルーム活動、昼休みの教室棟巡視など、全職員でいじめ等の早期発見及び迅速な対応により一定の効果が得られたと思われる。学校生活アンケートを年に5回実施し、アンケート後は正副担任による面談など、生徒と教師の連絡を密にすることで、相談しやすい環境づくりを行い、生徒一人一人に寄り添う指導に努めた。 ・ヒューマントレーニングを8回実施し、自他の生命尊重の心、他者への思いやりの心などの醸成に努めた。	A	・他者への思いやりを育みいじめをなくすことは大変大切なことだが、様々な環境でも力強く生きるメンタル教育も大事だとおもう。	教育相談担当 生徒指導主事 教務主任
●健康・体つくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ○自らの健康に気を付け、問題を改善しようとする態度や実践力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒90%以上 ○朝食をとって登校する生徒80%以上 ○健康診断後の受診率の向上を図る。（受診率30%以上を目指す） ○インフルエンザ等の感染症による学級閉鎖「O」。 ○新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症のｸﾗｽﾀｰ発生「O」。	・生活習慣アンケート及び食に関する意識調査、健康状況調査を実施し、健康に関する意識付けを行う。 ・保健だよりや掲示物等を活用し、健康に関する情報に触れる機会を設け、心身の健康を保持増進するための態度を養う。 ・担任・部活動の顧問と連携し、異常があれば改善・回復するための行動が取れるようにする。	B	・生活習慣及びネット利用に関するアンケートを7月に実施した。「健康に食事が大切である」と回答した生徒は85%、朝食を摂って登校する生徒は79%であった。 ・健康診断は、歯科健診のみ新型コロナ感染症の影響で9月末までに実施できなかった。その他の検診については1学期に実施し要受診者に受診勧告を行った。9月末段階で、進路決定を控える3年生の受診率は50%であったが、1･2年生の受診率は30%に満たない項目があった。 ・9月22日現在、ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞの罹患者はいないが、軽微な風邪や発熱で登校を控えるよう指導した生徒を含め、新型コロナウイルス感染症対策による欠席者が、のべ476名であった。	B	・生活習慣及びネット利用に関するアンケートの結果、「健康に食事は大切である」と回答した生徒の朝食や喫食率ともに昨年度を下回った。 ・健康診断の受診率は、2月末現在3学年合わせて、視力が22.4%で特に1・2年生が低い。歯科疾患が8.2%、眼科疾患が20.0%、耳鼻科疾患が25.0%で、ともに昨年度を下回った。 ・インフルエンザ感染者は0名、その他学校感染症に罹患する生徒も少なかった。新型コロナウイルス感染は年間を通して発生、陽性者は2月末現在のべ41名に達した。 ・年間を通して保健だより「げんき」を定期的に発行し、心身の健康など様々な情報を発信することができた。	B	・社会の中でもコロナを理由に様々な活動を休みやすくなっている。学校でも本当に体調が悪い時以外は積極的姿勢が大切ではないだろうか。 ・新型コロナの感染状況が唐津市においても増えており、今後も感染予防対策に努めて欲しい。	保健厚生部長
●業務改善･教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校時間の上限を遵守する。	・定時退勤推進日と月1回の完全退勤日を設定し、効率よい業務の遂行をできるように意識改革を行う。 ・会議時間の設定や資料の事前配付により業務の効率化を図る。	A	・時間外勤務時間が前年度同時期期間比で49%の削減結果となった。コロナ禍による部活動の活動制限などの影響が大きな要因であるが、完全退勤日を設定することで時間外勤務を減らす意識が少なからずとも浸透しつつあると考えられる。 ・会議時間の設定や資料の事前配付で業務の効率化ができている。	A	・時間外在校時間を昨年度実績の２５％削減となり、今年度の目標以上の達成となったが、新型コロナウイルス感染防止対策による新たな取り組みが数多くあり、会議や事務の効率化を図ることが難しかった。 ・会議時間の設定や資料の事前配付で業務の効率化を住めてきたが、コロナ禍で行事の変更などによる再立案で時間を要した。そのような状況の中でも、職員の献身的な努力と協力の下、代替案等での遂行ができた。	B	・部活動が活発になると職員の皆さんの負担は自然と増えるのではないだろうか。外部指導員による指導はどうだろうか。	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○特別活動	○部活動による人づくり	○部活動入部率80%を目指す。	・集会、個人面談等を利用し部活動の教育的効果、人格形成に対する効果等を説明し入部を督励する。1年生だけでなく、2年生の未入部生徒にも積極的に入部を督励する。	A	コロナ禍で生徒の積極的な入部が難しい中、入部率92%と高いものであった。これを維持していきたい。	A	入部率は高いが、今後は活動内容を充実させたい。	B	・入部率92%は素晴らしい。 ・部活が盛んだと、学校に活気があって素晴らしい。	特活主任

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・コロナ禍により予測不能な学習環境の中、ICT機器を積極的に活用しオンラインによる集会や講演会・授業を積極的に行った。次年度は、さらに効率的により良い教育効果を得られるように実践に励みたい。 ・「数学会」等による基礎学力の定着の取り組みは一定の効果を得られている。引き続き、生徒の学習意欲や授業に対する興味・関心を高める授業に取り組みたい。 ・地域貢献・連携は、コロナ禍においても創意工夫し積極的に取り組めた。今後も一層貢献・連携し地域から信頼される学校を更に築き上げていきたい。 ・生徒指導は、各科と各学年の連携を密にしながら全職員で情熱を持って指導に当たることにより、生活全般における規範意識の醸成に取り組んだ。学校独自の取り組みである、ヒューマントレーニングの教育的効果は道徳心の育成やマナーの醸成に繋がっており、さらなる向上を目指し実践し続けたい。 ・本校において部活動とものづくりの教育的効果は大きなものがある。生徒の人間力醸成のため引き続き、高い目標をもって取り組んでいきたい。 ・特に教室の環境美化を徹底し、整理整頓を心掛けさせることで落ち着いた学習環境をつくり出していきたい。